

企業勤務経験のある先生!

1つの質問に4人の先生が本音で答える

先生 TALK!!

毎回テーマに沿って4人の先生にご登場いただく本企画の2回目は、「企業勤務経験のある先生」。民間企業から先生へと転身した理由や、そんなご自身の経験から生徒さんに伝えたいことを伺いました。

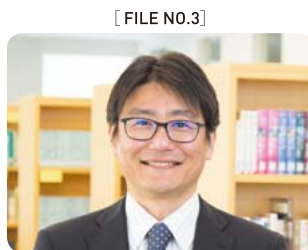
Q1 ≡ プロフィール



[FILE NO.1]
樟南高校(鹿児島県・私立)
普通科未来創造コース主任
国語・新聞の授業担当
光司智徳先生(教員歴13年)



[FILE NO.2]
西宮高校(兵庫県・市立)
1学年担任 進路指導部
数学担当
赤松恵先生(教員歴2年)



[FILE NO.3]
豊南高校(東京都・私立)
1学年担任・学務部長
数学担当
辻元俊夫先生(教員歴12年)



[FILE NO.4]
甲斐清和高校(山梨県・私立)
2学年担任・進路指導部・広報部
国語担当
高野みか先生(教員歴11年)
※教員歴は非常勤も含めた年数。

Q2 ≡ 教員を志した理由

大 学で教員免許をとりましたが、新聞記者の採用試験に合格し、憧れのマスコミ業界を6年経験。充実した毎日でしたが、記事を書いても読者の反応がなかなか見えないことが物足りなくなり、目の前にいる生徒と触れ合える先生の仕事に憧れが募ってきました。大人の面もあり、子どものように育てられる部分もある高校生に、特に魅かれました。

高 校で勉強を教え合うとき、友達の「わかった!」という顔を見て、教える楽しさを味わいました。教師を目指して大学は教育学部に進みましたが、田舎から神戸の大都会に出て世の中の広さに愕然。「実験を積まなければ何も伝えられない」と痛感し、多業種のバイトをこなし、IT企業にシステムエンジニアとして就職。その経験を伝えたくて教師になりました。

大 学院の博士課程卒業後、企業に研究員として勤めていましたが、組織改編で秋田の工場勤務になりました。その後36歳で転職を決意。私自身、大学、大学院で尊敬する先生に巡り合い、未知の領域に踏み込む手法や、研究成果を伝える力を学び成長できました。今度は自分が先生として生徒の成長をサポートしたいと思いました。

地 方紙の記者を3年経験後、結婚を機に専業主婦になりました。ところが年々社会に出て働きたいという思いが高まり、大学で取得していた教員免許を活かせる非常勤講師の求人に応募しました。やっているうちに生身の人間とぶつかり、人生の大事な期間をサポートできる高校の先生に大きな魅力を感じ、本腰を入れて働くことを決意しました。

Q3 ≡ 教員として大切にしていること

常 に新しいことに挑戦したいですね。その思いで普通科「未来創造コース」の改編に携わり、今年で3年目です。新しい教育実践の一環として地元新聞社と提携して新聞の授業を始めました。「増税が延期された背景は?」などのニュースについて話し合い、普段ほとんど新聞を読まない生徒たちが社会の動きに気付くきっかけづくりに努めています。

熱 意で引く張るタイプではないので、生徒の気持ちを考えながらのコミュニケーションを心がけています。今の高校生は嫌われること、否定されることを怖がり、本音をなかなか言いません。本音はSNSで吐いて、現実の世界ではボーカフェイスの生徒が多い気がします。そんな彼らの変化に気を配りこまめに声をかけ、距離を縮めるために努力しています。

祖 母から聞いた「どうせやるなら気いようなはれ」という言葉が信条です。「気いよう」とは「気持ちよく」ということ。どんな小さな仕事でも成長できるように工夫の種を探して、求められた以上の成果を出せるように心がけています。いやな顔をすれば相手にも伝わります。自分の気の持ちようがチームワークにも影響すると肝に銘じています。

人 生には一つの道だけが用意されているわけではなく、世の中では一つの能力だけが求められているわけではありません。社会で役立つ生き方は百人百様あるのだから、他人と比べ過ぎず、それぞれの個性を活かすのがよいと思います。生徒一人ひとりがかけがえない存在であることを伝え、その子がかもつ素質を引き出すサポート役になりたいと思っています。

Q4 ≡ 最近嬉しかった出来事

未 来創造コースに全力投球してきましたが、「生徒に本当に届いているのか?」と不安になることも。しかし持ち上がりでクラス担任をして3年目の今年、毎年7月に行っているスピーチコンテストの内容を聞いて、成長ぶりを実感。テーマは多彩で文章力があり、自分と向き合う力もついて粒ぞろいので、今まで信じて取り組んできてよかったと思いました。

昨 年は教員1年目の「新人でしたが、今年生徒から「先生の授業は楽しかった。また授業を受けたい」と言ってもらえたとき。授業では生徒同士で解説し合うなど、アクティブ・ラーニングの時間を必ず確保。自ら話し、友達の話や聞くことで、主体的に授業に参加する意識が高まり、学んだことへの理解が深まります。その工夫を評価してもらえたのかなと思います。

教 員生活も12年目となり、卒業生がふらりと立ち寄りてくれ、一緒にお酒を飲みながら語り合えることがときどきあります。そんなときは本当に嬉しいですし、「私学の先生を選んでよかったな」と思います。社会に出てどうあってほしいかを常に意識して生徒に接しているため、今はまだ大学生の卒業生たちがどんな社会人になるのが楽しみです。

今 年3月、初めて担任として卒業生を送り出しました。クラス全員がそれぞれ自分らしい進路を決めて迎えた卒業式に感動しました。本校はいわゆる不本意入学の生徒も多いのですが、挫折感を乗り越えて「この学校に来たからこそ、この進路を選べました」と言ってくれた生徒を見て、少しは役に立てたのかなと充実感を味わいました。

Q5 ≡ 最近気になっていること

L INEを1日300件以上チェックする生徒もいますが、本当に青春がもったいない。もっと身になる他の経験に時間を投資してほしいですね。面と向かって話ができない生徒が増えているのも気がかり。教師の言動がおかしいと思ってもLINEでは話題になるようですが、直接言ってきません。対面して話すのはパワーがありますが、その力をつけてほしいです。

進 学校ではほぼ全員が大学進学を志望するせいか、「夢がない」という生徒が多いのが気がかり。私自身もそうだったのでよくわかるのですが、せいぜい好きな教科や身近にある職業くらいしか判断基準がありません。裁判を見に行ったり、職業体験をしたりと社会との接点を自分から求めて、自分の適性や生きる道をもっと真剣に考えてほしいです。

大 学全入時代の今、精一杯努力する生徒が少なくなっている気がします。努力してもその時間が短く、結果が出る前に諦めてしまう姿を見ると歯がゆいですね。受験勉強は何ができないかを自覚し、できるようになるために必要なことを考え実行する力をつけるチャンス。勉強する意味を主体的にとらえ、大人になるチャンスと捉えて取り組んでほしいです。

学 校にいると成績が良く、先生の指示に素直に従う生徒の評価が高くなりがち。だからこそ社会の現状、変化を見つめ、どういう人が社会で要請されているかに敏感でありたいですね。日本のスタンダード、今いる高校のスタンダードなど、馴染み深い世界にとらわれすぎないように、自分の中にあるスタンダードを信用しすぎないように気を付けています。

Q6 ≡ 今後、挑戦してみたいこと

未 来創造コースではスピーチコンテストの他に、英語で寸劇を行うスキットコンテストやフラワーアレンジメントの講習にも取り組んでいます。来年度からは韓国人の講師を招き、韓国語や韓国の文化を学ぶ授業もスタートします。今後良いものは恐れず取り入れ、生徒の人間の幅が広がるような体験をたくさんできるコースづくりを続けたいですね。

I CT教育。現在も視聴覚教室で映像を使った授業などを行っていますが、他にもパソコンソフトを使ってグラフを作図させたり、プログラミングに挑戦させたりして、数学の理解を効果的に深められる授業をしたいです。またプレゼンテーションやインタビューなど、社会に出て役立つ経験がたくさんできる総合学習の時間を企画するのも夢です。

今 年4月にサイエンス同好会を立ち上げました。大学院や企業勤務を通して学んだ実験・研究のノウハウを活かしたいという念願が、やっと叶いました。1学期はスーパーで買った鶏の手羽や豚足を使って骨格標本を作ったり、放物線の特徴を説明する模型を作ったり…。活動を通して理数科目の楽しさを伝えたいですね。

ま さに、今年のクラス目標が「Challenging」です。生徒には失敗してもいいので怖気づかず、諦めず挑戦し続けてほしいです。そのために私は伴走者として一緒に走りたいですね。例えば受験に挑戦する生徒に不安や挫折はつきものですが、「私が信じているよ、大丈夫だよ」というメッセージを伝え続けることで背中を押したいです。

Q7 ≡ 社会人経験を基に生徒に伝えたいこと

ど んな人生が待っているか誰にもわかりません。私自身、新聞記者になった当初は自分が高校の先生になるとは予想もしませんでした。今目の前にあること、等身大の実力でできることに全力で取り組めば、必ず役立つと伝えたいですね。また失敗を恐れなくてほしい。教師や保護者が失敗しないよう先回りせず、失敗から学ぶ機会をもっとつづけてあげたいです。

自 分自身の経験から、「提出期限を守らないと信頼を失うよ」「コミュニケーション力は大事だよ」という2つはつこいくらい伝えています。今の高校生はゆとり世代、指示待ち世代と言われるのですが、教えてもらう機会がないからできないだけ。わからなければ聞く、困ったら困ったと言う、忘れたら忘れたことを伝えるなど非常に基本的なことから教えています。

組 織とは凡人が集まって非凡なことをする集団」とはある経営者の言葉です。一人ひとりに特別な才能がなくても、チームで協力すれば何かを成し遂げられるという意味。私も同感で、高校時代からそんな経験を積んでほしいですね。以前担任したクラスでは2年続けて文化祭でビデオ映画を制作。チームワークを発揮して、面白い作品を完成させてくれました。

高 校生の時点で知らない仕事はたくさんあるし、向いているかどうかはやってみないとわからない面もあります。思い描いた夢が破れても、「この道じゃなかった」と思っても、リカバリーは可能です。私自身、人生のゴールは結婚だと思っていたのに、専業主婦には向いていなかった(笑)。紆余曲折を経ても、必ず自分らしい生き方は見つけられると伝えたいです。